

青山サロン みんなで俳句をつくりましょう！



短歌・川柳・詩も OK

ハイクだより NO.7

2023年7月31日

夏井いつき先生のことばから

俳句を知ると人生が変わる！

俳句こそ人生だ！

- 俳句で脳トレ！老けない脳に。
- 俳句で人生が楽しくなる！
頭もよくなる！
- 俳句で脳が若返る！
認知症も防げる！



口語でも文語でも

あかとんぼ
く赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり…正岡子規
規>「けり」はビックリマークのようなもの。
昔の書き言葉は「文語」、今の言葉は「口語」といいます。それぞれの良さを知り、どちらも使ってみましょう。

カタカナや記号も使って

俳句は、たった17音の詩への挑戦です。いろいろ試してみましょ。くゴルゴダの石の凸凹月青し…兼光>「石のでこぼこ月青し」では、石の角ばったイメージが浮かんできませんね。くつちぐもり霾や*に続く文字…兼光>「*」はアスタリスクという記号。一字で6文字。見た目が簡潔で、黄砂煙る砂漠の空にポツンと光る星にも見える。

◆次のページ俳句・短歌・川柳を新聞や雑誌などから紹介します。俳人や歌人以外は苗字のみです。

俳句のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語が入る(季節を表す魔法の言葉。)
- ③ 切れ字がある(や かな けり)

- ◆ 卒寿なお女性の矜持更衣……西川
- ◆ 医師なれど土木工事や麦の秋……菅原
- ◆ 隣家との誼深まる溝浚へ……堀上
- ◆ 畳間のミニコンサート夏の夕……花守
- ◆ 卓球を終えし喫茶のゼリーかな……田村
- ◆ 前世を聞いて欲しそに 蠶……原田
- ◆ 梅雨晴れや交換に来る置薬……鈴木
- ◆ 鉢植えの小さき房にも袋掛く……村岡
- ◆ 花菖蒲まつすく生きて独り老ふ……大野
- ◆ きよつも又一汁一菜梅雨さなか……黒木
- ◆ 涼みつつ吾の朗読を聞きし人……黒木
- ◆ 五月雨や煩惱洗い流すほど……坂下
- ◆ ひまわりや金婚式の喜寿と古希……山本
- ◆ もてなしに岩魚釣り来る里の兄……竹内
- ◆ 旧知より届きし鮎の良き匂ひ……藤
- ◆ 鉄砲も鬼も鹿の子も姫も百合……山の
- ◆ 老いて今大リーグ通冷奴……富永
- ◆ 馬の尻洗っている御田祭……寺尾

短歌のしくみ

- ① 五七五七七の三十一音
- ② 季語はいらない。

- 寝ころも一首はびくる紙びん
- 胸の上のせ聴く青葉風……武蔵
- 朝散歩10種の鳥を見つけたら
- 我が畑に住むる種を加える……河野
- むらさきに畑一枚を染め上げて
- まじりに名を負う仏の座はや……矢端
- 雑草にもそれぞれ名あり春なれば
- ともに花咲く吾の菜園……児島
- 歳だから無理をするなと子らの声
- 聞こえぬふりし大根を引く……近藤
- 久々に会えた友達ほわわと
- 変わらない風が心を撫でる……山田
- 「がんばれ」に励まされる子苦手な子
- スプラン下を奮発は上を向く……坂本
- 春風に倒れし小屋の農機具の
- 錆の深さよ使つ人なく……江塚
- 聴衆はどうだったのか「総理は無事」のみ
- 繰り返す爆発のニュース……武蔵
- 瓜の種まいて五日目次々と
- 土のかさぶた押上げ芽吹く……辰川
- 冬を耐えた蕨・ぜんまいの踏ん張りは
- えぐみとなりて春を迎える……羽田
- 戦争を知らない子どもだったのに
- 高齢となり国を危惧する……佐々木

川柳のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語はいらない。

- ★ 脱原発ドイツでびびるなげなげなげ……森井
- ★ 「アフリート避難せよ」地下は無し……加藤
- ★ フンドセル夢いっばいに歩いている……柳川
- ★ 休肝日私の辞書に載っていない……大田原
- ★ お湯割りの比率を変える物価高……植田
- ★ 日本中猫も杓子も胡椒挽き……莊子
- ★ 少子化の元を正さずアドバルーン……手繰
- ★ 「神様」をまじつかせてるセルフレジ……鳴海
- ★ 戦争を知らぬままいてほしい孫……松尾
- ★ 派遣増え結婚できぬ世の中に……沢
- ★ 健康へ不安煽って「マーシャル」……鈴木
- ★ 誰だかはマスクしないとわからない……日高
- ★ 「コロナ禍や換気のいらぬわび住まい……長
- ★ マスク取り驚いたのはしわの数……夕子
- ★ 木花駅初めて見たよ満員車……日高
- ★ すまんねえ世話するたびに母は言う……山分
- ★ 捏造の証拠がつくる死刑囚……桑山
- ★ 非正規で進む未婚化晩婚化……本間
- ★ 九条のある国で武器見本市……白井
- ★ 引き金に手をかけ平和守れない……たかぎ
- ★ 濁点をつけてはならぬヌートバー……宮崎
- ★ 立ち姿古武士のごときダルビッシュ……中平
- ★ やりくりをせせら笑っている物価……森井
- ★ ぞよ地震の予知も頼んだぜ……池田
- ★ 映画館やつり行けたよ4年ぶの……水野

寅さんとキリスト教

風天俳句を探る中で、キリスト教の牧師関田寛雄に出会った。渥美清と同じ1928年生まれ、日本基督教団川崎戸手協会の牧師や青山学院大教授(実践神学)を長く務め、第一線を引いてからは、神奈川県内の巡回牧師をしている。自他ともに認める寅さんの大ファンで、21年間務めた教会の牧師をやめるとき、協会から記念品の九谷焼を差し上げたいと言われ、「そんなものは私にとって豚に真珠。それより【男はつらいよ】のビデオ全巻をください。今買うと寅さんグッズがついてくる」と言って念願の品を手に入れたという。寅さん映画は初期から封切館で全部見た。「この場面、あのシーン、寅さんの行動と考え方はキリスト教につながる。今のキリスト教はユーモアとペーソスを失っている。寅さんに学ぶことは多い」という。「寅はいつも自由だが、自分勝手な自由ではない。自分をおぼり出して、傷んでいる人、寂しい人、辛い人、重荷を背負っている人を見ると、すっ飛んで行って助けようとする自由です。」「寅には我欲がない。己の欲、己中心の欲がない。いつも己を捨てて人を助けに行く。「妹さくらはいつも寅をいさめ、とりなし、尻拭いをし、慰めてくれる『聖母マリア』的存在である」「『男はつらいよ』のテーマは悲しみと自由と愛の3つです」日本中の誰もが知っている寅さんとそれを取り巻く人々の物語が、いつの間にか聖書の世界に広がり、ユーモアを交えた関田牧師の説教に信者たちは笑いを誘われ、面白い、わかりやすいと評判を呼んだ。



ただいま。
このひと言のために、旅に出る。

「『寅次郎夕焼け小焼け』の芸者ぼたん(太地喜和子)がとらやの家族にやさしくされて泣く場面はキリスト教で言うく汝の隣人を愛せよ。己のごとく汝の隣人を愛すべし)です。寅さん映画はイエスの教えのエッセンスなんです。」

「『寅次郎夕焼け小焼け』の芸者ぼたん(太地喜和子)がとらやの家族にやさしくされて泣く場面はキリスト教で言うく汝の隣人を愛せよ。己のごとく汝の隣人を愛すべし)です。寅さん映画はイエスの教えのエッセンスなんです。」

お遍路が一行に行く虹の中……渥美清(1994年6月6日作)について、関田牧師は、「虹というのは日本でも瑞兆と言われてめでたいこと、幸せの兆しのことです。その虹の中をお遍路が一行に行く、というのが最高に素晴らしい。キリスト教で言えば、虹は『約束に生きる人生』であり、『どんな人生でも望みなきにあらず』の象徴です。キリスト教の聖書に虹が出てくるのは、ノアの箱舟以後です。降り続いた大雨がやんで、ノアの箱舟だけが残る。乗っていたノア一族と動物たちが新しい命を始める。その時に神様が二度と人類を滅ぼさないと約束し、その印として虹を出した。ノアの箱舟の最後の結論は『神が虹を与えた』ということでした。お遍路は仏教ですが、重荷を背負いながら歩いている人間が虹に出会い『望みなきにあらず』と思った……そんな素晴らしい俳句だと私は思います。この句は僕にとって渥美さんからの最高の贈り物だと思っています。」(つづく)



青山公民館の玄関「青山サロン ポスト」
早速の投句ありがとうございます。みなさんからの投稿をお待ちしています。俳号(お名前)もお忘れなく！！

青山の作品コーナーその⑥

※近況で一句 青山 三休

◆東米良豊後への道

散策す

◆寝不足の鮎解禁日

夢追う

◆梅雨晴れ間

こじぞとばかり

農作業



※令和5年の初夏、雨が多い。梅雨と思えば仕方がない。例年とは違つ気がする。

産業革命でにぎわつた先進国の一人、反省の日々。終末期を青山の地に選んだの

は大正解。川から小枝を抜け香り豊かな

西風がさわやかで新鮮。味が違つ。都会の人に送つてあげたい。

川崎 年治

◆孫娘 みの虫見つけおおはしやぎ

◆長雨にカエル一人で鳴つづる

◆仰ぎ見る緑トンネル望尾鈴

◆柳の芽

裾までのばし

緑のシャワー



※四月九日晴れ朝五時三〇分 緑山 末吉

◆朝焼けを水面につつす早出かな

◆春よ来い冬の仕事背を丸め

◆俺喜寿おまえも喜寿や年じゃのう

◆同窓と旅館の夜は時忘れ

※昔を思い出し 緑山 末吉

◆空高くひばり鳴くのは麦畑

◆藪椿小鳥来いよと蜜をため



◆俳句読むそばでつれあいびきかき

◆年取りて俺とお前の二人連れ

畑に行こか温泉行こか

◆黄昏に我が人生も重なりて

千里の道も手を携えて

◆仕事終え

一合の酒

だれがとれ

◆じじいばば

野道のかげの

寄り添いて



カクハトモ

※収穫を顧みて

宏阿秋豊

◆朝曇イノシシまがいもぎ取らて



※成仏を願いながら

◆墓詣でくゆる煙に

立ち尽くし

名残り惜しなや

そのうち会える

※すべてに草生えて大変

◆夏の夕

草刈り機音

にぎわしく

※近況で一句

好々猫



◆草むしりチクリと虻のタツチアン

ドゴ

◆取り放題溶けない網の金魚すくい

◆金魚はね捕まえられない速過ぎるんだって

※近況で一句

俊幸

◆甘党は死ぬまで治らぬ遺伝ゆえ

◆通知表見たくもなし見せたくもなし

◆春一番耐えた水仙強き者



◆未来は若者たちが行く道過去は老人たちが来た道か？

※近況で一句

緑山 末吉

◆ 蛍出た友の電話で出かけゆく

◆ 年金でひっそり静かに生きてゆく

(わびしい人生)

◆ 病みて知るつれの気遣い思い知る

(二人で元気で年とろじやねか)

◆ 米作り苦労するわり

みいりなく農機は壊れ

体もこわす

(体はあつちこちいたい)

◆ つれあいや身体こてかなわねど口達者

◆ ドライブの

窓の外には尾鈴山

◆ 我が里の

橋からながむ

霧島山

夕焼雲が

たなびきており



◆ 川の中村境でけんかした

昔のげんだぼ今おとなしく

◆ 山や川我が古里の遊園地

(こんめーころは、かくれ

んぼ、かんけり、石けり、パ

ツチン、川遊び……青山

は、川のそばで夏はこくに

たのしかったな……)



(雑草の生命力に

お手あげだ)

◆ 梅雨に入り草の勢いすさまじく抜

いてもかけてもなおなや増せる



◆ 梅漬けてシソもみ入れて一安心

あとはらっきょういつ漬けよかな

(梅ちぎり、ラッキョ

ウ堀りもじじとば

ば。おれはどっちも好

きじゃかい、手をかさ

にやな……)



※徒然に

山崎 静子

◆ 若い一人支えし娘に「じらっく

◆ 召さるるまで仲良しく「じつよお父や

ん

◆ 久々に元気なひ孫の帰り来る

◆ 夕映えに雁のへの字に帰りける

◆ 延岡の故郷懐かし夢に見る

◆ 突然の春雷一発驚きぬ